

発行：(福) 十字の園本部署務局
理事長 平井 章

住所：〒431-1304
静岡県引佐郡細江町中川 7220-11
tel 053-436-9535
fax 053-437-1352

社会福祉法人 十字の園

ぶどうの木

(ヨハネ福音書 15章)



◆ ありのままに生きる ◆

伊豆高原 十字の園 施設長 青木 克文



知的障害者と健常者が共に生活する「ラルシュ共同体」の創設者であるジャン・バニエ氏の講演録集の中にこんな話がありました。面会に来た紳士がバニエ氏に自分の抱えている問題を吐き出しているときに、ダウン症のクロード氏が入ってきて笑いながら2人に握手をして出ていった。そのとき紳士は「何と気の毒に」といったそうです。

バニエ氏はこう続けます。紳士には恐れや欲望、自己本意な生活のゆえに本当のものが見えず、友好的で幸せに満ちた人間としてのクロード氏が目に入らなくなっていることこそ悲しむべきではないか。ありのままに自然や人間を見ることができず、生涯にわたって偏見をもって生きるとしたら、はなはだしい不幸というほかはない、と.....。

このようなことは残念ながら周囲でも散見されますが、心身に障害のある高齢の方々の生活を支える私達にとって、その人の存在を喜び、ありのままを見て受け入れることは、施設が目指す「共に暮らす」ための前提となることなので、自戒を込めて毎日を振り返っています。



浜松十字の園の44年の歩み

～入園・退園データから～

理事長 平井 章

昭和36年1月21日、園長以下全職員が玄関で4名の新入園者をお迎えし、浜松十字の園の歴史が始まりました。その日から44年目を迎えています。時代の変化を読み取り、変えてはならないものと変わらなくてはならないことを、見極めつつ、今後の使命を果たしていきたいと思えます。

表1 施設整備と定員

定員30人から始まり現在120人となっています。

年度	施設整備	定員(特養・短期)
昭35年度	老人ホーム創設	特30人
昭38年度	増築20床	特50人
昭39年度	増築50床	特100人
昭48年度	増築20床	特120人
昭59年度	全面改築	特120人・短4人
平11年度	増築(居宅)	特120人・短20人

表2 入園者・退園者の人数

平成16年3月末までの入園者は897人、退園者785人ですが、再入退園等を整理しました。

区分	入園者	%	退園者	%
男	301人	34.4	276人	36.6
女	574人	65.6	479人	63.4
合計	875人		755人	

表3 特養の運営費(措置費時代) 単位:円

介護保険施行前は措置費による運営でした。高齢化社会、高齢社会、少子高齢社会と時代の変遷と並行して運営費も変わってきました。

年度	事務費	事業費	合計	UP
昭40年	11,390	7,970	19,360	
昭50年	68,694	24,070	92,764	73,404
昭60年	122,876	51,460	174,336	81,572
平07年	189,331	65,300	254,631	80,295
平11年	208,929	67,710	276,639	22,008

表4 介護報酬(要介護3で算出) 単位:円

年度	介護費	食事費	合計	UP率
平12年	265,500	86,400	351,900	75,271
平15年	249,000	86,400	335,400	-16,000

措置費時代は措置費の単価に定員や職員の平均勤続年数が反映されていました。新聞購読料は、昭30年400円、昭50年2600円、平元年3600円、ガス代は250円、550円、700円でした。

表5 退園理由と在園期間

退園者755人のデータを分析しました。44年間では死亡退園が84%となりますが、平成元年以降では93%になっています。特養が終の住処となっています。

退園理由	人数	平均	最長	最短
死亡	663人	5年7月	28年1月	3日
入院退園	40人	3年2月	18年5月	18日
家庭復帰	41人	2年7月	13年8月	2日
他施設	11人	4年7月	11年3月	280日
計	755人	5年4月		

表6 死亡退園(663人)の月別人数

比較的冬期月の死亡率が高いといえます。

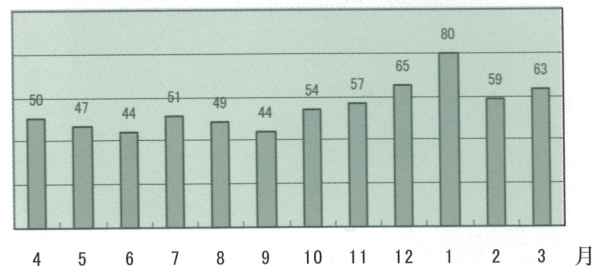


表7 入園時年齢と退園時年齢

特養入所のニーズが高くなるにつれて、入園待機期間が長く、入園時年齢も高くなり、平均年齢も高くなっています。特養の機能も変化してきていることも付け加えたいと思えます。

年齢(歳)	入園時	875人	退園時	755人
～59	16人	1.8%	5人	0.7%
60～64	89人	10.2%	18人	2.4%
65～69	134人	15.3%	67人	8.9%
70～74	157人	18.0%	114人	15.1%
75～79	175人	20.0%	132人	17.5%
80～84	152人	17.4%	161人	21.3%
85～89	94人	10.8%	135人	17.9%
90～94	48人	5.5%	91人	12.1%
95以上	9人	1.0%	35人	4.2%
区分	入園時年齢	歳/ヶ月	退園時年齢	歳/ヶ月
年度	～S64	H01～	～S64	H01～
平均年齢	74/01	78/07	78/06	85/04
最高年齢	96/11	98/09	101/04	108/10
最低年齢	49/11	58/08	55/10	63/01

「キーワードは、地域」

社会福祉法人 十字の園 理事

御殿場十字の園 施設長 上野 貢一



5月の連休に読みかけていた1冊の本を読み終えました。それは、「新しい社会福祉と理念－社会福祉の基礎構造改革とはなにか－」（中央法規）と言う本です。著者は阿部志郎、土肥隆一、河幹夫の共著です。3氏は、いずれも立場は違いますがこの改革に関わったキリスト者です。50年続いた日本の福祉政策が、時代の要請に応えるべく大きく基礎から変わり改革が進められています。「社会福祉は自立と自立支援を理念とし、社会連帯に支えられる営み」河幹夫氏。時代は、介護保険制度や支援費制度で「措置から契約」へと大きく変わる中で、まだ整えきれない現実があります。長かった措置時代の遺産と言うべきでしょうか。個人的には、変革期に福祉の現場で働ける幸いを思うのですが、しかし、変わったことへの理解と、今後、どのような方向に進むべきか。「今までの仕組みから変わりまして、生活の基盤である地域を土台にして新しい福祉を組み立てる」阿部志郎氏。福祉は、人と人との関わりであり、実践が全てだろうと思います。行政の補完事業として、利用者とお金が付いて来ていた時代から、自分たちで利用者を探し、事業経営を行っていく本来の姿に立ち戻る中で、自分たちの理念に基づいて利用者から選ばれるサービスを行う新たな視点として、地域と共に福祉文化を築いて行く視点が求められているように思います。激しく変動する時代の中で多様な福祉ニーズが出てきています。例えば独居老人の増加、高齢者の虐待、成年後見を始めとする権利擁護等。一方では民間事業者の参入が盛んに行われ、気が付けば周りに、デイサービスセンターやグループホーム等がぞくぞくと開設されています。法人として自分たちの使命は一体なんなのか。先達者の思いと合わせて、読み終えて「地域」という二文字が一步前へ踏み出す方向を与えてくれるようです。

デイセンター「母の家」 開設記念礼拝



十字の園は、浜松ディアコニッセ母の家によって創設されました。ハニ・ウォルフ姉妹が祖国ドイツに行って母の家や教会に日本の介護老人ホーム建設を訴え、当時のお金で600万円集めて来ました。この資金で、日本初の特別養護老人ホームが建てられたのです。十字の園老人ホームの定礎式が行われたのが5月5日です。この日はハニ姉妹の誕生日でもあります。今年の5月5日、浜松ディアコニッセ母の家『復活礼拝堂』において、デイセンター『母の家』開設と母の家創立50周年記念礼拝がもたれました。平井理事長は、「浜松ディアコニッセ母の家は、山浦ミツ姉妹と市川一二三姉妹がディアコニッセとして立志した1954年6月27日を創立の日にしています。今年が50周年の記念の年です。この度、ミツ姉妹と一二三姉妹のご協力とご賛同を得て、母の家の一部の部屋を改装してデイセンター『母の家』を開始することになりました。ここで新たな働きが、ディアコニッセの精神として十字の園の中に受け継がれていくことを願います。」

との挨拶のあと、山浦ミツ姉妹からは、「母の家が地域や十字の園のご老人たちのために使われることは、ハニ姉妹の喜びでもあり、私たちも感謝です。」との言葉が寄せられました。

礼拝後の交わりの中では、『十字の園老人ホームが出来るまで』『聖隷の姿』『ものいう手』のビデオを見ながら会話がはずんでいました。ハニ姉妹や長谷川保先生のエピソードや50年前の聖隷の運動会や遠足のことや、「私はヘレン・ケラーと会って握手をしたのよ」などの話がでできます。まるで聖隷や十字の園の同労者たちの同窓会のような感じでした。

5月6日から始まったデイセンターでは、デイやショートの利用者と入所の利用者など、その日その日にあわせて4～5名の方が利用されています。

平成15年度は、介護保険事業での介護報酬の改訂（減額）が行われ、障害者事業では支援費制度が導入されました。社会福祉を取巻く情勢の変化を受け経営面では、法人の各事業決算に影響が出ていますが、全体を通じた総額では、運営の効率化、在宅事業の拡大などの努力により減益の幅を縮小する事が出来ました。

1. 役員会 理事会 4回・評議員会 4回開催
2. 監事監査 決算監査及び業務監査 2回実施
3. 運営会議 施設運営の推移と連携 6回開催
4. 法人研修会 法人大会及び職種毎に 7回開催
5. 施設運営

浜松、御殿場、伊豆高原、松崎の指定介護老人福祉施設並びに身体障害者療護施設及びアドナイ館、御殿場アドナイ館のケアハウス事業など順調に運営できました。

社会福祉法人会計 貸借対照表 (単位：千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	973,682	流動負債	110,574
現金預金	557,373	未払金	42,498
未収金	348,438	預り金	4,076
仮払金	3,871	他会計区分借入金	64,000
他会計区分貸付金	64,000	固定負債	1,270,941
固定資産	4,045,068	設備資金借入金	1,057,308
基本財産	3,900,735	長期運営資金借入金	61,750
土地	486,300	長期預り金	129,938
建物	3,414,435	退職給与引当金	21,945
その他の固定資産	144,333	負債の部合計	1,381,515
建物	2,345	純資産の部	
構築物	3,135	基本金	870,123
構築物	20,326	国庫補助金等特別積立金	2,275,149
運搬用具及び備品	94,331	次期繰越活動差額	491,963
その他の固定資産	2,250	(うち当期活動収支差額)	183,743
その他	21,945	純資産合計	3,637,235
資産の部合計	5,018,750	負債・純資産の部合計	5,018,750

事業活動収支計算書 (単位：千円)

勘定科目	決算額
介護保険収入	2,267,476
国庫補助金等特別積立金取崩額	141,315
事業活動収入計	2,408,791
人件費	1,503,566
経費	556,367
(直接介護費)	332,345
(一般管理費)	224,021
利用者負担減免額	2,515
減価償却費	215,018
引当金繰入	3,968
事業活動支出計	2,281,434
借入金利息補助金収入	6,459
受取利息配当金収入	13
寄附金収入	13,955
雑収入	28,901
事業活動外収入計	49,328
借入金利息支出	16,462
雑損	7,288
事業活動外支出計	23,751
経常収支差額	152,934
特別収入	39,969
施設整備等補助金収入	138
固定資産受贈額	0
国庫補助金等特別積立金取崩額	0
他会計区分繰入金収入	39,650
会計区分外繰入金収入	24,601
特別収入計	104,358
基本金組入額	0
国庫補助金等特別積立繰入額	33,883
固定資産除売却損	16
他会計区分繰入金支出	39,650
会計区分外繰入金支出	0
その他の特別損出	0
特別支出計	73,549
特別支差額	30,809
当期活動収支差額	183,743
前期繰越活動収支差額	308,220
次期繰越活動収支差額	491,963

公益事業会計 貸借対照表 (単位：千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	24,187	流動負債	950
現金預金	18,607	未払金	950
未収金	5,106	固定負債	894
仮払金	474	引当金	894
固定資産	5,565	負債の部合計	1,845
器具及び備品	2,372	純資産の部	
その他の固定資産	3,193	基本金	5,111
計	29,751	次期繰越活動差額	22,796
		(うち当期活動収支差額)	5,020
		純資産合計	27,907
		純資産計	29,751

財産目録

資産・負債の内訳		金額
I 資産の部		
1. 流動資産		
普通預金	静岡銀行 細江支店	309,682,189 円
	静岡銀行 御殿場支店	41,435,199 円
	伊豆信用 八幡野支店	8,687,424 円
	スル方銀行 御殿場支店	671,267 円
	静岡銀行 松崎支店	3,211,521 円
	静岡銀行 松崎支店	7,292,383 円
定期預金	静岡銀行 細江支店	205,000,000 円
未収金	(介護報酬他)	353,543,991 円
仮払金	(棚卸残高)	473,504 円
他会計区分貸付金		3,870,802 円
		64,000,000 円
		997,868,280 円
2. 固定資産		
(1)基本財産		
土地	(8棟 21,753.55㎡)	3,414,434,757 円
建物	(20筆 25,182.77㎡)	486,300,426 円
	基本財産合計	3,900,735,183 円
(2)その他の固定資産		
建物	(倉庫・物置等)	2,345,429 円
構築物	(門扉・陸橋等)	3,134,831 円
運搬用具		20,326,214 円
器具及び備品		96,703,076 円
権	松崎町温泉利用権	2,250,000 円
その他の固定資産	(退職共済積立金)	21,945,458 円
その他の固定資産	(診療所)	3,192,772 円
その他の固定資産	その他の固定資産合計	149,897,780 円
	固定資産合計	4,050,632,963 円
	資産合計	5,048,501,243 円
II 負債の部		
1. 流動負債		
短期運営資金借入金		0 円
未払金	(業者支払い他)	43,448,159 円
預り金	(所得税他)	4,076,151 円
他会計区分借入金		64,000,000 円
	流動負債合計	111,524,310 円
2. 固定負債		
設備資金借入金	社会福祉・医療事業団 5口	1,004,495,000 円
設備資金借入金	静岡県社会福祉協議会 6口	52,812,802 円
長期運営資金借入金	社会福祉・医療事業団 1口	61,750,000 円
退職給与引当金	静岡県退職共済	21,945,458 円
長期預り金	ケアハウス入居一括徴収金	129,938,000 円
減価償却引当金		894,359 円
	固定負債合計	1,271,835,619 円
	負債合計	1,383,359,929 円
	差引純資産	3,665,141,314 円

公益事業活動収支計算書 (単位：千円)

勘定科目	決算額
診療収入	33,040
診療外収入	1,979
雑収入	5,772
事業活動収入合計	40,791
事務費支出	6,913
診療支出	7,257
繰入金支出	21,601
事業活動支出合計	35,771
当期活動収支差額	5,020
前期繰越活動収支差額	17,776
次期繰越活動収支差額	22,796

浜松十字の園及び御殿場十字の園に併設する診療所事業が、公益事業会計に計上されています。財産目録には、社会福祉事業及び公益事業が合算され法人全体の合算合計として決算されています。

各施設からの事業報告

■ 浜松 十字の園

施設長 平井 章

(H 15 年度報告) サービスの質の向上では、ユニットの再編成をして、8 ユニットから 11 ユニットに細分化したことで、重介護の方のユニットを作りました。生活の質の向上では、集会室を区切り、ユニット食堂・居間の設置、和室・集会室の設置、訓練室をユニット食堂に、食堂を訓練室とユニット食堂・居間に、職員休憩室を喫茶室にと改修工事を行いました。セミ・パブリック、パブリックスペースによって、利用者の生活に潤いが生まれました。勉強会や施設見学、研修等により職員の意識が向上しました。

(H 16 年度計画) ショートユニットに個室 2、納戸、受付を設置しました。職員が礼拝に出席しやすいように午後礼拝を月 2 回実施しています。

■ 伊豆高原 十字の園

施設長 青木克文

2004 年 2 月には、ユニットケア導入から 1 年半が経過したのを機に入居者のご家族、職員にアンケートを実施しました。その結果、

- ① 個浴介助方法の徹底、
- ② 全体行事の再検討、
- ③ 職員充足、

が課題として示唆されました。

さらに、事業計画の中で企画された勉強会や委員会等の活動も開始し、更なる「職員の一致団結」を目指しながらユニットケアの充実を図っています。

在宅部門では、様々なマニュアルの整備も進み、事業所間の連携も迅速かつ円滑に行われています。職員の努力により在宅事業も伸び、成果をあげています。

■ 松崎 十字の園 (オリブ)

施設長 三條洋二

松崎十字の園が 2 年目を迎え 1 年目の混乱の時から一歩踏み出せる事が出来るか、試される時であったかと思えます。利用者の生活については、お茶ドライブ、聖和保育園運動会参加、おやつ作り、施設内空き部屋利用サテライトデイ、オリブ支援員による喫茶のサービス、買い物等の企画の中でそれぞれが楽しむ場と時が提供され、利用者、職員それぞれの思いの実現がわずかながらでも出来てきた感があります。今後は、利用者の希望、意見を取り入れた生活になればと思います。また教会の婦人部のシーツ交換や聖和保育園児の訪問、リフォームの会の衣類の補修、洗濯物たたみ、ひまわり会の朝食のお手伝いなど地域のボランティアに支えられて歩む事ができました。

■ 御殿場 十字の園

施設長 上野貢一

H 15 年度事業展開として

4 月：障害福祉が支援費制度に変わり身体障害者デイサービスセンター等対応。

5 月：夜勤 5 人体制開始。看護師制服廃止。逆デイ、パート職員配置。

6 月：売店「美久里屋」開業。

9 月：デイお持ち帰り弁当日曜も開始。

11 月：施設サービス指針完成。

3 月：喫茶「ぶどうの木」地域に開放。デイ定員 30 名から 35 名に変更。

新年度新事業として

4 月：ガイドヘルパー事業開始。

9 月：ヘルパー 2 級養成事業を開始予定。

今年度も、「喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい」の聖書の言葉を掲げ歩みます。

■ アドナイ館

施設長 宮岸孝一

要介護認定者が 3 割を超え、ロングステイやデイサービス・ヘルパー等の介護サービスを利用しなければ自立生活の継続が困難となり、入居者の自立支援を援助するためにケアシステムサービスを施設独自のサービスとして機能活用することができました。また、安全、衛生、防災、環境面にも心掛け廊下全面塗装工事を始め、サービス基準指針・危機管理・食品衛生管理等のマニュアル作成、職員の自己評価への取り組みを実施しました。在宅「デイサービス」事業も地域のニーズに応えるため「6 時間～8 時間」体制に時間を延ばし内容の充実を図ると共に、送迎用リフトバスを日本財団を通して購入しました。開設 10 周年記念誌の発行もできました。

各施設のトピクス



2匹加わりました

浜松 十字の園 小澤 博和

古株で大先輩の「リン」(セツランドシープドック種) 4才?の他に新たに「ソラ」(ミニチュアダックスフント種) 雄4才と「ムー」(シーズー種) 雌1才の2匹が加わり、3匹になりました。利用者はもちろん、職員までも癒してもらっています。ご利用者の中には自宅で犬を飼っていた方も多く、犬を見ると頭をなでては「かわいー」と皆さん抱き上げては笑顔がこぼれています。抱くことの出来ない寝たきりの方にはベッドの上に乗ってもらい、顔をペロペロと舐めています。毎日、自分の所へ来てくれる事を心待ちにしている方、待ちきれずに、会いに来てくださる方(リハビリになります)みんなニコニコ顔です。もちろん、犬の嫌いな方もおりますので、その人の側は、職員が「犬」を小脇に抱えて足早に通ります。「ソラ」はとても人懐っこく、いつもしっぽをちぎれんばかりに振っています。ところが、納入業者や電機等の修理業者を見掛けると勇猛果敢に今にも食いつかんばかりに吠えます。「番犬」という言葉を思い出すほどです。「ムー」は利用者の事を分かっているかのように何をされても怒りません。頭をなでられてその指が目に入っても鳴きませんでした。じっと我慢のぬいぐるみの様です。ユニットケアになってから愛着のある物を持ち込んでの入所になりましたが、これから愛犬や愛猫を連れて一緒に入所という時代が来るかも知れませんね。



ガイドヘルパー事業を開始しました。

御殿場 十字の園 高橋 雅昭

今年4月より御殿場市から委託を受けガイドヘルパー事業を開始しました。御殿場十字の園では今まで身体障害者デイサービス、身体障害者ヘルパー、身体障害者のショートステイを行っていましたが、この度ガイドヘルパー事業が新たに加えられます。ガイドヘルパーとは聞きなれない言葉かもしれませんが、視覚障害や肢体不自由の方が役所や病院・買物等に行くために外出する際、ヘルパーが同行し、移動の付き添いや外出先でのお手伝いをさせていただきます。

今までは御殿場市が主体となってサービスを提供してきましたが、4月より御殿場十字の園に移行ということになります。また、この事業は昨年より導入されました支援費制度の枠の中で行われることとなります。

事業を開始して既に3ヶ月が経過しましたが、問題を一つ一つ解決しながら少しずつ軌道に乗ってきているというところです。

新しい事業のため分からないことばかりで手探りの状態ですが、常にサービスの向上を目指し、利用者が納得して安心してサービスを利用できるよう努力していきたいと思っております。

"お楽しみを1つ追加"

御殿場 アドナイ館 田内 博夫

アメリカでは今、ツリーハウスが静かなブームで有ると、テレビで様子が紹介されていました。今年度、御殿場アドナイ館ではフィンランド直輸入ログハウスがオープン致します。入居者の方が、遊び心を持って、木の温もりを感じつつ心落ち着ける居場所(隠れ家)になればと期待しております。



✧ 花と緑に囲まれて… ✧

伊豆高原 十字の園 高野 寛子

私たちの施設でもユニットケアがスタートして1年半。職員一人一人がユニットケアとは…?という思いを巡らせ試行錯誤していくなかで、より家庭的なやすらぎの場作りのために知恵をしぼり、これまで努力してきました。その中で、どの家庭にもある花と緑を施設にも、と思案していたところ、(財)静岡県グリーンバンクから花の種・球根をいただけることとなり、昨年からは職員2人(園芸部長)が中心となって家族会の協力を得て、中庭を車椅子でも行けるように整備しつつ花壇を作り、利用者の皆様がいつでも草花を楽しむことができるようになりました。



今では、毎日のように利用者の方々が中庭を覗き、草花の成長を確かめては喜び、笑顔がこぼれ、それが、職員・家族の笑顔にもつながっています。今後、伊豆高原では中庭だけでなく、すべてを花と笑顔であふれる環境作りを展開していきたいと考えております。

🍴 本日(だけ)開店 気まぐれ食堂 🍴

松崎 十字の園 山本 隆弘

組織にはいろいろな部署があり、ついつい自分の部署だけを考えてしまいがち。そこで松崎では、6つの委員会(部会)を作り、パートを除く全職員は必ずどこかの委員会に所属し、その立場から施設全体のことを考え、企画・実施する活動を行っています。その中のひとつ、給食委員会が中心



になり、3月は「カレー&ハヤシの日」4月は「おやつの日」が開催されました。普段は決った場所で決まった顔ぶれで決まった食事を食べていますが、この時は特養・オリブ(身障)・デイの区別なく臨時レストランへ集合し、メニューは少ないのですが、好きな物を選び、好きな場所で好きな人と食事を楽しみました。同じ建物に居ても行き会う機会は少ないのですが、この時はあちこちで「同窓会」が開かれました。お店の運転資金は各所のおやつ代等で賄っているため稀にしか開店しないのですが、次なる企画を給食委員会は考えているようです。

🌹 バラの花言葉は…『愛』 🌹

アドナイ館 鈴木 晶子

個人の所有されるバラ園を無料で開放して下さる所と伺って、「5月の花」であるバラを、デイサービス一行で見せていただこうと出かけました。さすがに新聞等で紹介されたこともあってか、多勢のお客様や他施設のデイの車が渋滞を作っています。交通整理や園内管理でお疲れの様子なご主人から「デイサービスは、年寄り連れだからと周りの迷惑も考えずに車を止めたり、出したイスを片づけずあいさつもなしに帰っていく。」とお叱りの言葉が…。もっとも、私たちのことではないものの、肝に命ずるべき事だと思いました。だいぶ遠慮がちに…でも、何百種ものバラが美しく咲き誇る庭園を、感動の心一杯で散策し、さらに、ご主人の先立たれた奥様がお好きだった花を「妻に捧げる」思いで育てられた愛の結晶である事を知り、より深い感銘を受けました。バラの花言葉は、愛。先のデイの職員さんは、お年寄りを愛するがゆえに取ってしまった行動かな…などと思いめぐらせ…たくさんの愛を見せていただきました。



—2004(平成16)年度 新規採用者—

4月1日の辞令交付式で十字の園に新しい仲間が加わりました。

☆浜松十字の園：4名

(介護士) 東海林美緒・恵川加菜子
(看護師) 町田くに子 (事務員) 田村美枝子

☆御殿場十字の園：18名

(介護士) 横山麻里・岩瀬政枝・長田貴利・宮地秀明・眞田明日香・小野真樹・小澤智恵
只野あつ子・板橋君江・廣瀬正巳・池谷洋子・長田明己・杉山由希子
(看護師) 岩田明子・須崎眞理子 (相談員) 芹澤徹郎・勝又智子 (事務員) 渡邊直美

☆伊豆高原十字の園：5名

(介護士) 三浦伯子・寺田馨・稲葉啓太
遠藤大輔
(看護師) 佐々木典子

☆松崎十字の園：6名

(介護士) 中川修大・田辺康明・山本孝美
山本幸代・杉山 歩
(事務員) 山本富輝

☆法人本部事務局：1名

(事務員) 森 茂廣

計 34 名

辞令交付式には 20 名が出席しました。



平成 15 年度寄付金報告

温かいご支援を ありがとうございます

去年度も多くの皆様からこころ温まるご支援とご寄付を賜り誠にありがとうございました。皆様方から寄せられたご寄付は、より良い施設づくりのための施設整備及び備品購入にあてさせていただきます。今後とも、福祉共生社会の成熟に貢献しつつ、皆様の声に適切に応える施設として活動する十字の園へのご支援を宜しく願います。

法 人 本 部	8 件	16,000 円
浜 松 十 字 の 園	98 件	4,035,768 円
御 殿 場 十 字 の 園	215 件	2,477,074 円
伊 豆 高 原 十 字 の 園	117 件	2,688,431 円
松 崎 十 字 の 園	22 件	1,786,000 円
ア ド ナ イ 館	180 件	2,924,161 円
御 殿 場 ア ド ナ イ 館	2 件	27,471 円
合 計	642 件	13,954,905 円

「送迎支援車」頂きました

昨年度、伊豆高原十字の園では、日本財団より福祉車輛助成事業を受け送迎支援車輛／車椅子対応の軽自動車を導入いたしました。お陰さ



まで、細い道でも利用者さんの玄関先まで横付け出来て、たいへん喜ばれております。日本財団を始めご協力を賜りました関係者の皆様に謹んで感謝を申し上げます。

昨年度は、この他に御殿場十字の園、アドナイ館、松崎十字の園にても、日本財団殿、共同募金会殿、全国マツダ労働組合連合会殿より福祉車輛の導入助成を頂きました。有難う御座いました。

〈あとがき〉

「泳ぐ」という詩の一節を紹介します。

～人々と共に生きていく中で、
僕らは知らずに緊張している。溺れまいとして、硬直した手足を必死に動かして疲れ果てている。自



分の力みが、人と共にあってのびのびと生きる喜びを邪魔しているのだ。まず、力を抜くこと。誰を前にしても、力まずにありのままの自分をゆだねること。生まれつき泳げる人はいないのだから、まずは浮く練習から。～頑張ることは悪いことではありません。でも、頑張り方を工夫しないと辛くなってきます。聖書を読むと「自分の力<神様の恵み」という公式に気づかされます。「苦しい時の神頼み」ではありませんが、辛いなって思う時、ちょっと神様に自分をゆだねたら、新しい発見があるかもしれません。(隆弘)

皆様の 暖かい御支援をお待ちしております!!

〒431-1304 静岡県引佐郡細江町中川 7220-11

社会福祉法人 十字の園

理事長 平 井 章

銀行振替 静岡銀行細江支店 普通 0015345